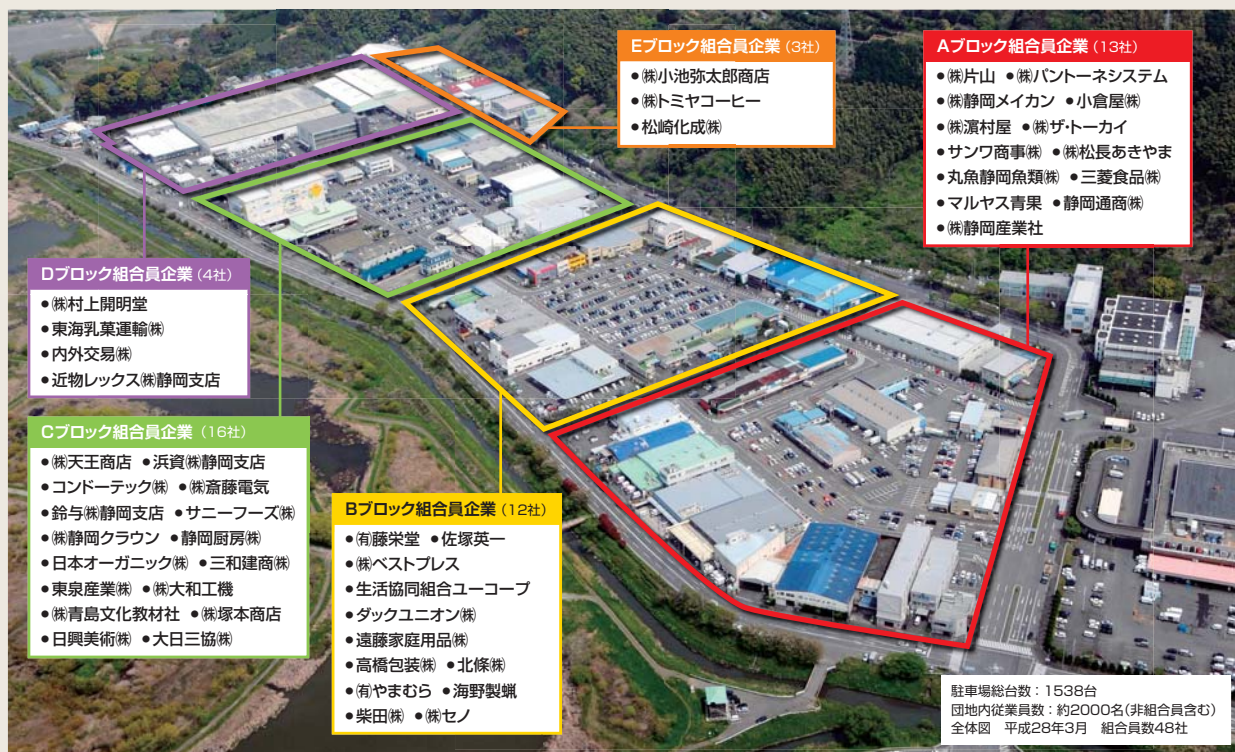


協同組合静岡流通センター 静岡県静岡市葵区流通センター2-1



卸売団地の新たな役割を模索する姿勢を学ぶ

高崎間屋町駅から車で案内を受けた際、「卸売団地というより一つのまちである」というスケールの大きさを感じました。平成17年の群馬パース大学の開学など、まちを歩く若い人が増加したことを受け、ロードサイドには家電量販店やファミレスなども出店。事務用品卸売業が雑貨を交えた小売展開に取り組みだした例もあるそうです。団地事務局は「まちづくり会社」的な事業展開をされ、今後も様々にまちの形を変えていくんだという自信が感じられました。

仙台へは「せっかくだからイベントを開催している時期に」という趣旨で「卸町ふれあい市」に合わせて訪問しました。イベントスペースだけでなく団地内の企業がこの日ばかりは小売展開(破格値で消費者還元)され、レジ待ちの多くのお客で活気が溢れていました。団地事務局は研修事業など「組合員向け」の支援事業に徹しつつ、クリエイターの支援、文化事業など新たな役割を模索していくという意欲を強く感じました。

卸商業部会担当：総務部 会員サービス課長 山崎一英

そして、周辺の市街地が広がり、平成27年12月の地下鉄開通等、地域住民との共存の場所になっていると感じました。

〈ポイント〉

- 定款、ルールの見直しなど時代や環境に合わせた変化と挑戦。
- 市営マンションを建てて市街地を広げ、その中にセンターが入居。

- 会員会社が常に入れ替わり、当初の会社は全体の2割ほどに。
- 組合委員のための街づくり。
- センターの施設を子育て支援に活用。
- ロードサイドで事務所を賃貸し、起業家を支援。
- 音楽スタジオや能舞台施設等、新しいことに挑戦し、多業種、広い世代が利用。